ロタウイルス性胃腸炎

定期接種

2020年10月～

関連ページ 嘔吐・下痢 腸重積 ロタウイルス性胃腸炎

ロタウイルス性胃腸炎について

ほぼすべての子どもが４～５歳までに感染しますが、特にはじめてかかったときに重症化しやすい特徴があり生後３ヶ月から２歳未満が重症になりやすいです。

症状は？

他の胃腸炎より発熱、嘔吐、下痢の程度がひどく、脱水になりやすいです。
感染力が非常に強く、**下痢になる２日前くらいから発症後10日くらいはウイルスを排出**し、乳児が感染すると家族内にも感染が広がります。
かかっても一生続く免疫は得られませんが、繰り返すうちに症状は軽くなります[1]。
白色便はロタウイルス性胃腸炎の特徴のひとつですが、
他のウイルスでも白色便になることがあります。

合併症は？

けいれん 熱性けいれん、胃腸炎関連けいれんなどを起こしやすいです。

脳　炎 意識障害や長引くけいれんを伴い、重い脳炎を起こすことがあります。
ロタウイルス感染症による脳炎では､脳炎の４割に後遺症が残る報告も[2]。

腸重積 ロタウイルス感染症が原因で腸重積を起こすことも。（腸重積を参照）

治療法と処理のポイント（嘔吐・下痢を参照）

抗ウイルス薬など特別な治療はありません。
脱水に注意して水分摂取をこまめに行ってください。
なお、乳幼児では下痢止めも原則投与すべきではありません。
またロタウイルスにはアルコールの消毒は効果がありません。
吐物や下痢を処理した後は**次亜塩素酸ナトリウムやアイロンでの消毒**が有効です。

潜伏期間 １～３日　改善まで １週間程度

参考文献：
1) NEJM 335:1022-1028,1996(PMID: 8793926)
2) 臨床と微生物 47,131-136,2020
3) Western Pac Surveill Response J 14:28-36,2016.(PMID:28246579)
4) 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール（2020年１月版）
5) 日本小児科学会．ロタウイルスワクチンの初回接種時期について（第２版）.

ワクチンについて

経口生ワクチン。感染そのものは防げませんが、重症化予防が期待でき、接種で入院率が85％減少した報告などがあります[3]。

⬇ 効果は同等で、どちらかを接種します

１価（ロタリックス） **生後６週から24週になる前までに２回接種**

５価（ロタテック） **生後６週から32週になる前までに３回接種**

- 初回接種が生後15週以降になると腸重積のリスクが上がるため、生後８週～14週６日までの初回接種がすすめられています[4]。
- 口から少しこぼれても、ある程度飲み込めていれば再接種は不要。
- １価と５価のワクチンを交互に接種することはできません。

ワクチンの副反応（腸重積を参照）

下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱などが１～５％程度、**腸重積**があります。
1回目の接種後1週間以内に腸重積症を発症することが稀にあり（10万人あたり１～５人）
早く見つけて治療することが非常に大切です。

ワクチン接種後（特に初回）７日以内は気をつけること[5]

すぐに受診

- □ 15～30分おきに不機嫌な様子を繰り返す
- □ 何度も**嘔吐を繰り返す**
- □ **イチゴゼリーのような血便**が出る

すぐに受診

- □ 嘔吐症状が強く半日以上**水が飲めない**
- □ ぐったりしている
- □ 水の様な下痢が**１日６回以上**ある
- □ 口や舌が**乾き**、涙が出ない
- □ 尿の量が少ない
- □ **血便**が出た
- □ **けいれん**

© 教えて！ドクター／佐久医師会　https://oshiete-dr.net　2020.09